えん
社会福祉法人
同胞援護婦人連盟

令和元年 12 月発行
第 29 号

「クリスマス！」

花の家の女児が
描いた作品

ご 挨 拶

理事長　村松　満

初めまして、本年 6 月 9 日付で前任の加古明子理事長に代わり、本職を引き継ぎました。どうぞよろしくお願いいたします。就任後約半年という節目でもあり、この間の法人に関する動きについて、若干、近況報告を兼ねて触れたいと思います。

まず、法人内に中長期の経営計画を策定するための委員会を設け、来年度からの 10 年を展望した 5 年間の実施計画を策定する作業に取り掛かりました。内部の職員だけでなく、外部のコンサルタントの力も借りて、現在、年度内の策定に向け、議論を進めています。

国や都の施策方向は、児童養護施設や母子生活支援施設等について、小規模地域分散化や高機能化・多機能化を目指すべきとしています。これには財源配分も条件化するという厳しい方向付けもなされています。

こどものうち八栄寮、リフレここのえを運営する当法人として、こうした新たな社会的養育に相応しい運営体制をつくりあげ、時代に即応した対応能力を備えていかねばなりません。中長期計画は、この課題に取り組んでいくための道標になるものと考えています。

次は、こどものうち八栄寮の南側を走る予定の国道八王子南バイパスの件についてです。現在、こどものうち八栄寮に入る道路は大変な急坂、狭隘路であり、災害時などを考えると大きな不安要因になっています。この解消は、こどものうち八栄寮にとってまさに悲願ともいうべき課題であり、歴代の法人関係者も事あるごとにその解消を関係機関等に働きかけてきました。それがここにきて、所管の国道事務所に動きが出てきたのです。最終的にどうなるかまだ予断できる段階ではありませんが、バイパス側道からの当施設へのアクセス道路について、新たに設計を試みるという話が先ごろもたらされました。

これが実現すれば、こどものうち八栄寮へのアクセスは格段に向上し、あの急坂も利用することなく施設へのアクセスが可能になります。私たち法人としては、今後この動きを見逃さず、引き続き要請を続け、必要な対応をしていこうと考えています。

この他、子どもたちが暮らす生活棟等の大規模改修の必要性も挙げておかなければなりません。平成 3 年の改築後 30 年近くを経て、施設の至る所に不具合が生じています。これらは財政状況を勘案しながら、今後計画的に進めていく必要があります。来年度以降、専門家の知恵も取り入れながら、子どもたちがより快適に、そして安心して過ごせる施設とするため、着実に実行していきたいと考えています。

法人としての課題は尽きませんが、これらを一つずつ着実に解決していくことが、私たちに課せられた役割です。皆様の今後の変わらぬご支援をお願いし、巻頭の挨拶とします。

八栄寮の様子　－夏から秋－

こどものうち八栄寮
施設長　大村 正樹

夏から秋にかけての八栄寮の様子をお知らせする。

今年も暑い夏がやってきた。

カブトムシをとるために、木のそばにやってきた子どもがいた。長い木の枝を手に持っていた。じっと上を見上げた。木の上の方を枝で突っついた。すると、カブトムシが落ちてきた。今年も、たくさんのカブトムシやクワガタをとることができた。

夏休み、キャンプやスポーツなどたくさんの行事をおこなった。小中学生の女の子たちが多摩地区の児童養護施設対抗のバレーボール大会で銀メダルをとった。

９月になった。就職を希望している高校３年生の子ども２人が採用試験を受けた。２人とも第一希望の会社から内定をもらった。１人は水道設備の仕事、もう１人はゴルフ場のキャディーだ。

１０月、今年も大きな台風がやってきた。

昨年の台風の反省を活かし、住宅地に隣接している檜林には暴風による倒木を防ぐために、ワイヤーを掛けた。台風１９号がやってくる前日のことだ。台風当日は、何かあったときのために主任が八栄寮に泊まりこんだ。

幸い風はそれほどではなかった。しかし、今まで経験したことがない豪雨が八栄寮周辺を襲った。八栄寮の急坂には大量の雨水が流れた。また、雨水の蓋からは水が吹き出た。

台風が過ぎ去り、数日たった。地面に亀裂が入っていることが分かった。大量の雨で地面が緩んだためだ。すぐには危険ということではないが、今後のことが心配だ。

八栄寮本園の鉄筋コンクリートの建物を長期間維持するための、外壁などの補修工事も１０月から始まった。

１１月、都内の児童養護施設が集まり、小学生のサッカー大会があった。７月から練習に取り組んだ。その取り組みが実り、見事３位を獲得した。３位決定戦は延長戦の末の勝利だ。メダルを胸にした子ども達の笑顔がとても晴れやかだった。

夏から秋にかけて、様々な出来事とともに子ども達と職員は過ごした。今、八栄寮は落ち葉で一杯になっている。栗やみかんの実がなっている。後少しで冬がやってくる。

今年もプール招待や
夕涼み会など行事を
楽しみました！

※プライバシー保護のため写真を加工しています。

女子グループワーク

こどものうち八栄寮
児童指導員　中島 枝里香

今年の女子グループワーク、バレーボールのメンバーは不安のある子たちが多く、目標は大きく優勝！と言いたいところですが、大会では一勝させてあげられるかどうかもわからない状態からのスタートでした。

まずは監督とコーチで集まって不安なところをやり取りしながら対策を考えていきました。中学３年生で引退となっている子が４名、それぞれ想いが強い子たちだったので上手くそこを引っ張っていってあげられると良いなという気持ちがありました。練習日程もあまりない中、レギュラーメンバーは早めのうちにサーブ練習や６人レシーブ等の本番に近い形での練習をさせていき、なるべく子どもたちの不安も少なくなっていくように指導していきました。また、メンバーに選ばれず大会に出られない子や小さい子たちにとっては日々の練習を頑張る目標や気持ちが無くならないよう、バレーボール経験のあるコーチが“特別スペシャルメニュー”を用意しました。しっかりとその練習メニューをこなしてゆけば基礎が身につき試合で活躍できる選手になれることを伝え、そのことを目標にして気持ちを持ち上げていきました。大会前には試合形式で小さい子も交えて対戦し、細かい動きを確認して詰めていきながらチームに良い雰囲気も出来上がっていきました。

しかし、大会当日になり出発前にレギュラーメンバーに１名欠員が出たことをメンバーに発表しなければならない状況になりました。その発表を聞いて動揺し涙を流す子や補欠から試合に出場することが決まった子の大きな不安を、応援にきた職員が沢山フォローする中で、子どもたちも次第にこの状況を何とかチームで乗り越えようという気持ちに切り替わっていき、より一層チームの団結力が高まったように感じました。ミスをした時に悪い雰囲気が出て崩れていってしまわないように明るい雰囲気を皆で作るよう指導していたこともあり、緊張が強い中大会ではそれぞれが得意な部分を発揮してカバーしている姿がありました。強いボールが来ても向かっていき、メンバーがカットしたボールは最後まで皆で必死に追いかけて繋いでいこうとする姿は感動的でした。

準優勝が決まった時は不安だったメンバーがここまで成長したこと、夏の暑い中皆が練習を良く頑張った成果が出たのだととても嬉しく思いました。また、日々サポートして支えてきた職員の力の大きさを感じ、グループワークの目的を感じることが出来ました。

小学生キャンプ

こどものうち八栄寮
児童指導員　石田 浩二

八栄寮では１年を通じて沢山の行事を行なっています。それらの行事は子ども達に楽しい思い出をつくってもらうだけでなく、普段と違う体験を行い、達成感を得たり、社会性を身につける大きなチャンスとなっています。特に夏休みには、各年代でのキャンプや小中学生のグループワーク、夏休みの振り返りの夕涼み会など様々な行事を行います。

８月７日～９日にかけては小学生野外生活キャンプに行きました。八栄寮の小学生１０名、地域の小学校に募集をかけて集まった児童９名、職員、ボランティア合わせて約３０名のにぎやかなキャンプとなりました。今年は平野田休養村キャンプ場で川遊びやカレー作り、ナイトハイクにキャンプファイヤー、花火に流しそうめん、工作と盛りだくさんの内容でした。特に川遊びでは、浅い場所での魚つかみ、少し深い場所で浮き輪を使っての川下り、水鉄砲遊び、虫探しなど大人も子どももずぶ濡れになって遊びました。天気も３日間快晴！と言いたいところでしたが山の天気は変わりやすく２日目の午後には子どもが怯えるほどの雷雨となりました。それでも子ども達はできる遊びを見つけ、元気一杯遊びました。

地域児童の中には今回初めて親元を離れ、お泊りをする子どももおり、最初は不安そうな顔をしていましたが、親子説明会・プレキャンプという２回の事前プログラムを行い、当日に向けた気持ち作りを行いました。当日は普段と違う場所に電車やバスを使ってみんなで行ったことや、普段できない様々な体験を重ねることでたくさんの「できた」「楽しかった」という達成感、思い出をつくることが出来たと思います。来年も是非、楽しい行事にしていきたいです。

「それがいい」

こどものうち八栄寮
児童指導員　福地 彩

現在高校 3 年生のＣさんは、6 月のＡＯ入試でイラストレーションの専門学校に合格を決めた。小学 2 年生で入所した当初は、思い通りにならないと怒り、叫び、物に当たるという、なんとも落ち着かない女の子だった。また、自分の好きなものがよくわからないと言う子だった。しかし、絵を描くこと、読書が好きと気付いてから、のめりこむように絵を描き、本の世界に没頭する中で少しずつ自分が形作られていく様子が見て取れた。それに伴い落ち着いた生活ができるようになっていった。

それでも、自信のなさから自分で決定する事が苦手で、職員の言うことに委ねてしまう傾向が強かった。高校受験の時も、こちらの提案に乗る形での受験となった。

そして、最後の進路選択。本児の特性をみると、就職して余暇を自分の趣味に当てて過ごすことがよいように思われた。そのように提案すると、「それでいい。」と言う。しかし、あまりにも他力本願で、自分の人生に責任をもって欲しいという想いから、自分でよく考えるよう突きつけた。すると“イラストレーションに携わる仕事に就きたい”という希望のもと、専門学校の進学を提案してきた。ただ、安易に受け入れることはできなかった。一番は経済面。本児は高校 1 年生から寿司屋でアルバイトをしているが、そうやって貯めたお金でも、あっという間に学費に消えてしまう。そのため、専門学校に通いながらアルバイトをして、生活費、学費を稼ぐという精神的にも肉体的にも大変な 2 年間が待っている。それを乗り越えるだけの力が、気持ちが本児にあるのかということが懸念材料だった。そのことを伝えると、力、気持ちを見せるべく、日常生活の過ごし方、意欲を見せるためのプレゼンなど、本児なりに取り組み、2 年間頑張れるなと思えるだけの姿を見せてくれた。そこからは、専門学校進学と決めて動いていくこととなる。すると、嬉しい変化が見られた。本児に自主性が芽生えたのだ。今までなら職員任せにしてしまうようなことも、自分で考え、その考えを元に相談することができるようになったのだ。また、目に見えて生きる力が湧いてきているようにも感じた。

6 月に合格してからは、9 月の特待生の試験に向けて課題作りに没頭した。しかし、結果は不合格。写真のような作品を作っても通らない現実の厳しさを体感した。

残念ながら、本児が一番不安な金銭面でのフォローはできないが、精神面や環境面など、職員としてできる応援は目一杯しながら、本児の進学をサポートしていきたいと思っているし、彼女ならその期待に応えてくれるとも思っている。

［各施設在籍者・利用者数］　　（令和元年 11 月末現在）

こどものうち八栄寮	リフレここのえ	八王子市子ども家庭サービス事業利用者数 令和元年６月～11 月末
幼児　９名	乳幼児　２８名	ショートステイ　326 名
小学生　１９名	小学生　７名	トワイライトステイ　71 名
中学生　１０名	中高生　１名	合計　397 名
高校生　１１名	【計２０世帯５６名】	
専門　１名【計 50名】		

リフレここのえで赤ちゃんが産まれました！！

「Sun・Sun・Smileプログラム（産前・産後母子支援プログラム）」

リフレここのえ
施設長　横井 義広

リフレここのえで初めて赤ちゃんが産まれました。10 月下旬に 2700 グラム強の可愛い女の子です。これまで産後一か月で入所する親子はいましたが、リフレここのえで出産をしたことはいままでありませんでした。退院の日には職員が花束を持って迎えました。

昨年度、リフレここのえ内で産前・産後の親子をどのようにしたら受け入れることが可能なのかと、プロジェクトチームを立ち上げて、みんなで研究してきました。医療機関ではない自分たちが本当に受け入れることができるのか、不安に思った職員は多かったです。近くに開業している助産師に依頼し、4 回にわたり講義を受けました。その中で、「子どものことは、医療機関や私たち（助産師）にまかせればいいのですよ。それより、お母さんが安心して産める環境を作ってあげることが大切なんですよ」と話してくれました。また、慈愛寮（出産できる婦人保護施設）の元施設長にも講義を受けました。「生活施設」で妊婦を受ける意味について、「もしも、望まない妊娠だった妊婦さんでも、安心して産み、みなさんに暖かく迎え入れられ、“この子と生きていこう”とお母さんが思ったら、それは人生のターニングポイントになるかもしれないですよ」、「たくさんの大人に抱っこされた子どもは幸せになるんです」という言葉を聞いて、この事業の大切さを自覚しました。今年 4 月からスタートするにあたり、みんなで愛称を考えました。複数の応募者のアイデアを取り入れ、「産」と「sun」を掛けて「Sun・Sun・Smile プログラム」と命名しました。この事業を職員が大切にしてほしいという願いからです。

実際に出産したお母さんに聞いてみました。リフレここのえとの出会いは、母子手帳をもらった時に保健師さんに「不安はありますか？」と聞かれたことがきっかけでした。「自分の家族のことを考えると、経済的に苦しいし、子どもを育てる環境があまりよくない。産んでいいかわからない状態だった」とのこと。そして、「ひとりで自分だけで産んで上の子の面倒をみられるか心配」とのことでした。リフレここのえにきて「他愛ない話が新鮮」、「ひとりで悩まないでいられる」との感想をもったようです。出産後は、職員が実家のように手助けをしました。「職員にご飯を作ってもらって、自分がお風呂に入るときは職員が赤ちゃんを見てくれた。家事、洗濯、食器を洗ってくれて、とても助かった」という感想でした。

リフレここのえは、これからは子育て支援と「母子保健」分野との協働が必要になってきています。今、切れ目のない支援ということが求められています。施設機能の強化として、周産期から乳幼児、思春期対応としての無料塾の運営と、ライフステージの変化に対応できる体制を徐々に整えています。

みんなに見守られて
すくすく、元気に
育ってくれますように♪

リフレここのえで働くことの喜び

リフレここのえ
母子支援員　小幡 美智子

私は 4 月からの新任職員です。リフレここのえに就職する前は違う仕事をしていて、母子を支援するということがあまりピンときていなかったように感じます。挨拶するところから始めて、おしゃべりをし、子ども達から名前で呼ばれるようになって…と徐々に馴染んでいきました。懇談会で職員が作ったご飯を皆で食べたり、お誘いを受けてお部屋でご飯をご馳走になったりという事を通してさらにリフレここのえの一員として、溶け込めていけたかなと思います。

先日、リフレここのえで新生児が誕生しました。産後支援としてお部屋に入り、沐浴のお手伝いやお母さんがお風呂に入っている間の子の見守り、食事作り、洗濯…等々お手伝いをしました。お手伝いに入らせてもらう中で、新生児を抱っこしたり沐浴したりと私の人生では体験できなかったことをさせてもらえていることに感動しました。お母さん方をお手伝いしていると思っていたが実のところ、お母さん方にいろいろな体験をさせてもらっているのだという事を強く感じました。

これからも支援員としてはまだまだ駆け出しの私ですが、リフレここのえのお母さん、子どもたちに健やかに過ごしてもらえるよう、頑張りたいと思います。

学童キャンプ

リフレここのえ
少年指導員　藤原 菜々

2019 年度リフレ学童キャンプでは、子ども 10 人と職員 7 人で、このまさわキャンプ場に行きました。例年とは一味違い、一人一人が得意な事で認められる場を作るため、係と称して子どもたちに役割を持たせ、係活動を通して職員とともにキャンプへの気持ちを作っていきました。当日は準備の甲斐あって、川遊び、カレー作り、キャンプファイヤーなど盛りだくさんのプログラムを、天候にも恵まれ事故なく終えることができました。

行事の後に感想を聞くと、あれが楽しかった、意外とこれは苦手じゃなかった、この時が一番緊張した、等の声が多数ありました。既に身に付けた得意なことで認められる場となるよう努めたつもりが、彼らにとっては、普段は出来ないような自然体験とその中での他児や職員との関わりを通し、自分は「何が好きなのか」「こういう場面ではどう感じるのか」といった、自身の心の動きを新たに発見できた場にもなったのでは、と感じています。

このような、この先の人生を充実させる種を、行事だけでなく普段の学童保育の中でも、蒔いていくことができたら、と願うばかりです。

行事報告

リフレここのえ
少年指導員　神原 史歩

7 月 24 日、8 月 7・14・21 日の計 4 回料理教室を行いました。焼うどん、チャーハン、たこ焼きを作り、最終日にはリフレの庭で流しうどんを実施し、学童のみんなで食べました。調理中、年下の子に手本を見せる上級生の姿や、班の中で協力をしている子の姿が見られ、学童行事の思い出の１つとなりました。

オリーブみらい３年目を迎えて

無料塾オリーブみらい
塾長　内山 大樹

法人の新規事業となるオリーブみらいも 10 月で 3 年目を迎えました。オリーブみらいは地域の児童を対象とした無料学習塾です。有料塾に通えない世帯、ひとり親世帯、不登校・引きこもりなど、様々な事情を抱える小学生～中学生が主に通って来ています。塾では個別の学習支援を始め、おにぎりなど軽食の提供、育児相談などの家庭支援を通じて、子どもだけでなく家庭との関わりにも重点を置いて来ました。

思春期の子育ては一筋縄ではいきません。子には子の、親には親の主張があります。オリーブみらいは、そんな家庭の仲間に入れてもらい、子育てのパートナーとして親子の潤滑油でありたいと考えています。実際に、親子喧嘩やスマホの使い方、昼夜逆転や食生活等、多岐にわたって相談が寄せられ家を訪ねることも多々あります。

中には、「勉強どころじゃない」「どうせ何も変わらない」と諦めている不登校の生徒もいます。それを「やる気がないなら来なくていい」と突き放すのではなく、家庭に出向いて行って親子双方との関わりを続けることで「ちょっと勉強してみようかな」と前向きになることがあります。塾と家庭と生徒。この三者の関わりの中で子どもは変わっていくのです。

「塾だけど学習だけじゃない」オリーブみらいの支援を通じて、家庭と生徒のみらいに寄り添っていきたいと思います。

（11 月現在：職員 2 名、ボランティア講師 11 名、在籍生徒：13 名）

子育て応援事業　てんとうむし

こどものうち八栄寮
児童指導員　加藤 早織

子育て応援事業「てんとうむし」に取り組み始めて２年目となりました。０～３歳未満のお子さんとママ（パパ）を対象に、親子で参加できるイベントや、子育ての合間にママがホッとできるような居場所作りを目指して活動しています。

今年度は５月より毎週水曜日１０時～１２時までを開放日としています。好きな飲み物を飲みながら、ママ同士で“育児あるある”を話すなど楽しい会話が広がっています。スタッフもその輪に入りながら、お子さんの様子を聞かせていただいています。

先日、ネイルボランティアさんに来ていただいた際には、スタッフがお子さんを見ている間にママの爪をキレイにしてもらい、大好評でした。忙しい毎日を送りながらも、やはり女性としてキレイでいたいママの気持ちがとても伝わってきました。

また、八王子市と連携した「ぽっけ２」では、プレママ（妊婦さん）も含めたママたちの語り場として場所を提供しています。その他、館地域・親子ふれあい広場において七夕かざり、ハロウィンのかざり作りを実施しました。今後も地域と連携しながら、ママたちのニーズに応えられるようなイベントや活動を実施予定です。

HP も出来ました！
QR コードからどうぞ♪

～子どもたちのしあわせのために～

1　郵便振替　　：社会福祉法人同胞援護婦人連盟　００１１０－１－４９９３５９

2　ゆうちょ銀行　：社会福祉法人同胞援護婦人連盟　０１９店　当座　０４９９３５９

・折り返し当法人からの領収書をお送りします。
・社会福祉法人に対するご寄附は確定申告で所得控除の対象になります。
・住民税控除についてはお住まいの区市町村へお問い合わせください。

社会福祉法人同胞援護婦人連盟

児童養護施設　こどものうち八栄寮
母子生活支援施設　リフレここのえ
八王子市　子ども家庭サービス事業

〒193-0944　東京都八王子市館町 2232-1
Tel:042-661-5891　Fax:042-667-0006
http://www.yasakaryou.or.jp

編集後記

今号は各施設の近況や取り組みについてお伝えしました。夏休みを経て、子どもたちは心も身体も大きく成長し、リフレでは新しい命も産まれました。これからもどんな支援ができるか考えていきたいです。

【広報誌担当　神原史歩・加藤早織】

ご意見・ご感想・ご質問を法人宛のお手紙または FAX でぜひお寄せ下さい。お待ちしております。

株式会社小笠原（八王子市子安町 2-12-1）様の印刷協力に感謝申し上げます。